報道資料

TBSテレビ総務局広報部
03-3746-1111
2010 年 4 月 1 日

TBSテレビ、TBSラジオ＆コミュニケーションズ 2010 年度合同入社式について

4 月 1 日午前 10 時から、放送センターBスタジオで、TBSテレビ、TBSラジオ＆コミュニケーションズの 2010 年度合同入社式が行われ、TBSテレビ石原社長、TBSR＆C加藤社長ほか幹部が出席、新入社員の門出を祝福しました。

■ 両社の新入社員数

TBS テレビ 34 名　　TBSR&C　3 名　　計 37 名

■ 石原社長訓話

皆さん、入社おめでとうございます。清新な感性をお持ちの皆さんを、TBS の新しい仲間として迎えることができ、大変嬉しく思っています。

さて、皆さんは今日から放送人、社会人としての第一歩を踏み出すわけですが、今、放送業界そして TBS が置かれている状況を少しお話ししたいと思います。ご承知の通り、テレビ業界はデジタル化への巨額な設備投資を行ってきて、いよいよ来年 7 月に地上波のデジタル完全移行を実現しなければなりません。こうした中で、一昨年、世界的な同時不況が起こり、日本も景気が大きく後退し放送業界も大変厳しい状況にあります。電通が発表した去年 1 年間のテレビ広告費は、前の年に比べて 10%、2 千億近くダウンし、1 兆 7 千億円にまで落ちこみました。これはちょうど、東京キー局 1 社分の売り上げが消えてしまったような状況で、いかに景気の影響が大きかったかお分かりになると思います。TBS は数年前から、制作工程の見直しなど体質改善を進めてきましたが、こうしした急激な不況に対応しきれず、残念ながら昨年度は赤字決算となりました。今年度はなんとしても黒字を達成すべく、TBS ホールディングスと共に「活性化プロジェクト」を立ち上げ、全社一丸となって頑張っているところです。正に貴方たちは、放送業界の大きな変革期、そして TBS が一番苦しいときに入社されたわけであります。「艱難辛苦汝玉にする」と言う諺がありますが、人は苦しく辛いことを乗り越えてこそ、大成すると言う意味です。皆さんは今日から我々の仲間です。共にこの難局を乗り切っていきましょう。皆さんの若いエネルギーに大いに期待しています。

ところで放送業の先行きですが、ちょうどネットビジネスが台頭しはじめた頃に、TBS と長年協力関係にあるアメリカ CBS の社長が「メディアの新旧はもはや問題ではない。勝つのはテレビかモバイルかネットかという選択ではなく、あらゆるメディアにコンテンツを提供できる企業、つまり『ブロードキャスター(＝放送局)』から『コンテンツ・キャスター』に変わろう！」と宣言をしたそうです。TBS も数年前からネットやモバイルなど幅広く展開しており、TBS オンデマンドも他局に先駆けて黒字を達成するなど、現場の皆さんは一生懸命頑張ってくれています。

又、去年、映画で大ヒットした「ROOKIES」などが典型的な例ですが、放送・番組でヒットしたものを映画や DVD など新たな付加価値をつけて、利益を生み出しています。正に、CBS の社長ではありませんが、TBS も「コンテンツ・キャスター」としてソフトのマルチ展開を進め、収入源の多角的な展開を図っているところです。

TBS は「最強のコンテンツを創り出す、最良のメディアグループ」を目指すことを社の基本方針としています。どんなに技術革新が進んでも、コンテンツこそが「全ての収入の源泉」で

あることは言うまでもありません。私たちの先輩が、築き上げてこられた「TBS らしさ」「TBS の DNA」とは、『常に新しいものに挑戦するという先進性』、そして『報道機関としての使命を果たし、良質な番組を創りたいという高い志、放送に対する熱い思い』にあると確信しています。TBS ブランドと言いますか、よき伝統は、守り続けなければなりませんが、一方で時代の変化に対応し、変えていかなければならないところは、積極、果敢に変えていくことは、当然だと思います。

皆さんは、入社に当たって放送に対するさまざまな抱負を述べられました。どうかその熱い情熱と志を決して忘れないで下さい。そして、常に社会に目を向け、人々がどんな思いで暮らしているのか、自らの触覚を大きく張り巡らし、視聴者ニーズを汲み取って欲しいと思います。就職氷河期と言われますが、こうした中で皆さんは入社されたわけです。就職したくとも出来ない人々のことを思いやる気持ちは、放送人の資質として極めて大事なことだと思います。

最後に、テレビ、ラジオという放送メディアは、皆さんが想像する以上に大きな社会的影響力を持っています。そのことを謙虚に認識して、これからの業務に当って下さい。来年は会社創業 60 周年の記念すべき年を迎えます。オール TBS の精神で、最も愛され、信頼される放送局を目指し、今年を躍進の年にすべく、皆さんと共に頑張っていきたいと思います。今日は本当におめでとうございます。

■ 加藤社長訓話

新入社員の皆さんおめでとうございます。テレビとラジオあわせて 37 名の新しい仲間にこうして出会えたこと大変嬉しく思います。今日から、TBS グループの一員として新しい人生がスタートするわけですが、たくさんの先輩たちを始め、仕事で出会う新しい仲間と充実した幸せな人生を歩まれることを祈っています。とはいえ、社会に出て仕事をするということは、そうそう易しいことではありません。学生時代とはまったく異なる責任あるいは自己管理が求められます。まして、テレビ・ラジオというメディアに関わる仕事となればそのレベルははるかに高くなるということを肝によく銘じて欲しいと思います。テレビもラジオも現在大変厳しい状況にあります。この厳しい戦いを勝ち抜いた者にのみ　放送メディアで働く者としての、喜びや誇りを持つことが許されるのだと思います。私を含め先輩はこれから、歯を食いしばって頑張るわけですが、ぜひ皆さんも TBS グループの一員として、たくさんの試練や困難を克服しながら TBS グループが勝利者になるためにぜひ貢献していただきたいと思います。

ラジオ業界が現在抱える問題の大きな課題ひとつに都市部を中心とした難聴問題があります。高層ビルが乱立したりして都市部ではラジオが聴きづらい状況になり、そのことが若い人や、働き盛りの人のラジオ離れが進む大きな要因となっています。ラジオ業界が協力しながら相対している大きな課題です。そんな中、3 月 15 日から関東・関西において、ラジオの IP サイマルラジオの試験配信が始まりました。インターネットを通じて、ラジオ番組をパソコンで聴ける試験配信です。操作は簡単で、音質も良好、快適なサービスです。試験段階につき、関東は東京・神奈川・埼玉・千葉と限定エリアではありますが、反響も上々です。今ある課題をクリアして実用化されれば、聴きづらい環境にあった人が、ラジオに接する機会を増やすことができ、リスナーが大きく増える可能性を持っています。その他デジタル化により新しいビジネスの確立、ワンセグの活用などを含めて、将来に向かって明るい可能性も出てきています。これからの TBS ラジオを支える新しい 3 人の皆さんにも力を貸していただきたいと思います。入社以来 30 年間テレビの仕事してきて、去年 6 月から初めてラジオの仕事をしています。ラジオの仕事という意味では、たった 10 ヶ月先輩なだけです。皆さんと共に勉強していきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。新入社員の皆さんにあらためて　お祝いを申し上げ、また素晴らしい TBS 人生を歩まれることをお祈りしています。本日は本当におめでとうございます。

以上